

P-3C 体験搭乗を実施



搭乗員と共に記念撮影する参加者たち



搭乗員を囲んで肩を組んで記念撮影

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 松田 辰雄）は、6月17日（土）、海上自衛隊 厚木航空基地において、募集対象者30名に対するP-3Cの体験搭乗を実施した。

当日は、天候に恵まれる絶好のフライト日和となり、フライトの順番を待つ間は、管制室にて航空管制業務の様子を見学し、参加者からは、「管制指示を出す航空管制官の緊張感が伝わってきた」などの感想が聞かれた。

また、体験搭乗では、エンジンの轟音にやや緊張した面持ちで機内に乗込んでいった参加者たちも、フライトを終えて戻ってくると、「富士山の絶景に感動した」「機内ではソマリア沖でのように海賊船を識別するかの説明を受け、大変勉強になった」と満面の笑顔で話していた。

フライト終了後は、P-3Cの前で参加者と搭乗員が肩を組んで記念撮影する場面も見られた。神奈川地本は、「若者の自衛隊に対する関心の喚起と親近感の醸成を図れるよう、今後も自衛隊をPRするイベントを積極的に企画していく」としている。

自衛官候補生教育隊で女性自候生を激励

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 近藤 1空尉）は、6月19日（月）、久里浜駐屯地において、今春自衛官候補生として入隊した岩崎自候生を激励した。

岩崎自候生は、迷彩服に身を包み真っ黒に日焼けした姿で広報官の前に現れ、教育訓練での体験談や隊内生活の様子について元気に話してくれた。最後には、「同期と共に教育隊を無事に卒業ができてそうです」と笑顔で語るなど、その姿はすっかり自衛官らしくなり、頼もしさも感じられるほどであった。

市ヶ尾募集案内所は、「入隊者が新隊員教育隊で前向きに奮励する姿は広報官の励みになる。入隊後の体験談など、生の声を今後の募集活動に活かしていきたい」としている。

中学生の職場体験を支援

神奈川地方協力本部川崎出張所（所長 白岩 1陸尉）は、6月20日（火）、海上自衛隊厚木航空基地において、川崎市立宮内中学校2学年7名の職場体験を支援した。

当日は、まず第4航空群の広報資料館で基地の概要説明を受けた後、管制塔にて航空管制業務を見学し、その後管制シミュレーション室に移動して管制業務の体験学習を行った。

午後は、航空機格納庫でP-1哨戒機の機内を見学し、生徒たちは間近で見る航空機の大きさに驚いている様子であった。また、厚木連航隊では実際に救難消防車に乗り込み、放水銃による放水デモンストレーションを体験した。

体験終了後、生徒たちからは、「思い出に残る貴重な体験ができました」「自衛隊には様々な仕事があることを初めて知りました」などの声を聞くことができた。

川崎出張所は、「今後も職場体験の支援を通じて、自衛隊に対する関心の喚起と親近感の醸成に努めていく」としている。



管制シミュレーション室にて記念撮影